

凍結融解単一胚盤胞移植における妊娠に関連する因子の検討

当院では受精卵の凍結を行う際には、形態的に良好な受精卵から凍結します。そして、凍結した順に受精卵を融解し移植しています。つまり、最初に移植する受精卵は最も形態的に良好な受精卵であり、妊娠率も高いことが期待されますが、実際は必ずしも最初に移植した受精卵が妊娠に至るとは限りません。そこで、妊娠に至る要因はいったい何なのか、ということを検討してみました。

当院では、初期胚移植と胚盤胞移植の両方行っていますが、今回は胚盤胞についての検討です。

妊娠に関わる要因として、我々は「女性年齢」「採卵数」「受精方法」「胚盤胞の拡張度合い」「胚盤胞の将来赤ちゃんになる細胞のグレード」「胚盤胞の将来胎盤になる細胞のグレード」「凍結時の培養日数」を選びました。

その結果、妊娠に大きくかわる要因は「女性年齢」と「胚盤胞の将来胎盤になる細胞のグレード」であることが分かりました。

女性年齢の上昇に伴う妊娠率の低下については、現在では広く知られていることだと思います。今回はさらに、胚盤胞の将来胎盤になる細胞のグレードの低下に伴い、妊娠率が低下していることも分かりました。

この結果を踏まえ、当院では移植の優先順位を変更し、さらに高い妊娠率の向上を目指し、患者さまに貢献できるよう努力してまいります。